

独法土研

2006.1.25

第 55 号

1 月号

独立行政法人

土木研究所

茨城県つくば市南原 1 番地 6

TEL: 029-879-6700

<http://www.pwri.go.jp/>

理事長年頭挨拶



新年あけましておめでとうございます。

独立行政法人土木研究所が平成 13 年 4 月に発足して以来、早や 5 回の新春を迎えることとなりました。昨年は、日本国内では紀宮内親王のご結婚、また経済情勢も徐々に好転するなど明るいニュースがありました。しかし、世界的に見れば 9 月以降はアメリカのニュー・オリンズ市周辺がハリケーン・カトリーナにより大被害を受け、またパキ

第 55 号もくじ

理事長年頭挨拶	1
平成 18 年度予算の概要	3
今年の抱負(戌年生まれ)	4

お知らせ	5
編集後記	7

スタンおよびインド両国のカシミール地方では死者8万人にもおよぶ大地震が発生しましたが、防災という観点から見れば、どのような外力を研究対象と考えるべきかについて、誠に難しい質問をつきつけられた年であったと思います。

さて、今年4月からは、当研究所と独立行政法人北海道開発土木研究所が統合され、新しい研究所が発足します。新研究所の名称、業務目的などは1月中旬からの通常国会で審議される関連法案で明らかにされますが、両研究所が従来行ってきた国土建設・管理への貢献を目標とした研究業務が継続されるのは自明のことです。

しかし、当研究所から見れば、農地開発・水産・港湾といった当研究所にはない分野、あるいは寒地土木といった特別な条件下での分野を含めた研究所が発足することとなります。人数的にも当研究所の職員216人、北海道開発土木研究所の職員169人をほぼ合算した大研究所となります。当然、統合に伴う業務の合理化、研究テーマの調整などが必要となります。これらの調整はそのまま平成18年度からの新しい中期目標および中期計画策定準備につながるものであり、3月末までの残された期間に積極的に解決していきたいと考えております。

また、4月からは新研究所は他の大部分の独立行政法人と同様、特定独立行政法人から非特定独立行政法人となり、我々の身分は非国家公務員へと移行します。共済・退職金・国への出向等については従前と同様ですが、従前以上に徐々に研究所の独立的経営の色彩が強くなっていくことはまぬがれないと考えています。しかし、新研究所が従来の土木研究所の役割を引き継ぎ、国土建設・管理への貢献を十分果たせるよう努力していきたいと考えています。

ところで、昨年土木研究所は平成16年度について国土交通省独立行政法人評価委員会による評価を受けました。評価点は、平均状況を100%とした方法で123%であり、「順調」と評価されました。これで過去4年間、引き続き良好な評価を得ることができ、職員および関係各位の常々の努力が評価されたものと喜んでおります。しかし、各独法研究所を横ならびで比較してみると1人あたりの論文数では中間位であるなど、今後更に努力を要する点も明らかになっています。

平成16年度の業務実績報告書の中からトピックス的に話題を紹介したいと思います。実験施設の貸し出し・特許料収入・著作権使用料・研修等講師派遣などの収入もあり、自己収入の合計は計画額35,000千円を大幅に上廻る132,579千円（平成15年度108,301千円）となり、その一部について、施設改良等に充当することとしました。これは研究系独立行政法人としては特出した成果です。

共同研究については、独法後に開始した民間提案型の研究が結実する時期を迎えています。また、海外との研究協力協定も4年間の累計で20（平成15年度までの累計で17）と大幅に増加しました。

研究の質的向上も目覚ましいものがあり、各種学術団体からの論文表彰を受ける事例も多く、博士号取得者も30名（独法発足時19名）となりました。

ところで、ユネスコ水災害・リスクマネジメント国際センターを土木研究所の内部組織として設置する動きも活発化しました。昨年10月には、パリのユネスコ本部総会で設立が決議され、現在、閣議決定の後に日本政府とユネスコ、土木研究所とユネスコとの協定調印を行うべく諸手続きを行っております。昨年12月には初の国際公募により研究員（任期付研究員）を1名採用しましたが、さらに4名の研究員（専門研究員）の採用を国際公募により行うべく準備を進めています。平成17年度中にセンターを正式発足させたいと考えています。

平成18年度の予算案が示されました。それによれば、ほぼ必要額は確保されていますが、国土交通省全体の予算削減傾向および独法研究所全体の予算削減傾向を反映して、厳しく査定されており、また北海道開発土木研究所の統合効果を反映することを求められた予算となっております。

これから、平成17年度および第1期中期計画終了に伴う諸業務、北海道開発土木研究所との統合、非公務員化への移行、第2期中期計画の策定、平成18年度業務の開始などの数多くの業務が連続した日々になると予想いたしております。

役職員の皆様には御健康に留意されるとともに、一層の御活躍をお願いいたしまして、また今年1年が幸せな年となることを願ひまして、新年の挨拶といたします。

平成18年度予算の概要

平成17年12月20日に財務省原案が各省庁に内示され、12月24日の閣議において平成18年度予算政府原案が決定しました。

土木研究所の平成18年度予算（政府原案）は次のとおりです。

（単位：千円）

区 分	前年度 予算額 a	18年度 予算額 b	対前年度	
			比較増△減額 c=b-a	倍 率 d=b/a
一般会計	2,164,112	2,241,653	77,541	1.036
運営費交付金	2,046,111	2,127,193	81,082	1.040
施設整備費補助金	118,001	114,460	△ 3,541	0.970
道路整備特別会計	1,464,546	1,393,773	△ 70,773	0.952
運営費交付金	1,289,313	1,218,540	△ 70,773	0.945
施設整備費補助	175,233	175,233	0	1.000
治水特別会計	1,448,439	1,445,765	△ 2,674	0.998
運営費交付金	1,338,918	1,336,244	△ 2,674	0.998
施設整備費補助	109,521	109,521	0	1.000
合 計	5,077,097	5,081,191	4,094	1.001
運営費交付金	4,674,342	4,681,977	7,635	1.002
施設整備費補助金	402,755	399,214	△ 3,541	0.991

※本概要の計数には、独立行政法人北海道開発土木研究所分を含まない。

（会計課、研究企画課）

今年の抱負（成年生まれ）

総務部職員課 黒崎 良一



あけましておめでとうございます。

土木研究所に入所してから3回目の年男になります。次の年男は「定年」の年です。12年前も「どけん」に掲載していただいた記憶がありますが、時間の過ぎる体感的なスピードは、歳とともに加速度的に増すようで、あっという間の12年でした。これは記憶力が減退し脳に刻まれる情報量が減るからなのかなあ、などと考えたりしていますが、妻や同年代の友人も同じ症状を訴えており、だれでもが避けてはとおれないものようです。また、この歳になると、体のいろいろなパーツにガタがきて、年次休暇はほとんど病院通いで使っています。

今年は非公務員化、北海道開発土木研究所との統合と、はじめて経験する難題が待ちかまえております。気を引き締めながらも、健康に留意し、この1年をなんとか無事に乗り切りたいと思っております。今年もよろしくお願いします。

技術推進本部先端技術チーム 亀井敏行

今年で3度目の年男になり、このように出筆の依頼を受けたのですが、思い出してみると12年前の年男の時にはちょうど、就職して社会人になった年でした。



そのせいか、その時の新年の抱負として、給料に見合った仕事をしようと考えたことを述べた気がします、この点は今でも同じです。今までの時間の流れを考えると0～12歳の時は前半の記憶が無いにも関わらず結構長かったと思います。24歳までの時は受験時や入社時の試験などもあったのですが、一番、時間が長かったように思います。その後の就職してからは時間の流れが異様に早く感じます。これからの12年がこのペースで進むと思うと、ちょっと怖い気もしますが。

今年の抱負は仕事のことはがんばるのは当然として、一昨年到此方に入所するまで一度も関東に住んだことが無かったのでこちらに居る間に色々な所に行ってみたく思います。

来た当初も同じことを考えていたので、何時でも行ける＝絶対に行かんとならないようにしたいものです。



構造物研究グループ橋梁構造チーム 高橋実

新年あけましておめでとうございます。社会人になってから初めての年男を迎えました。

私生活での去年の思い出は、家族で初めてディズニーランドとディズニーシーに1泊で行き、妻や娘（3歳）の喜ぶ顔を見られたことです。入場した直後、人盛りの中に娘の大好きなミニーが居たので近づいて行きしばらくすると、ミニーが僕と娘と一緒に写真を撮ろうとジェスチャーしてくれて記念撮影できたことが印象的でした。これに味を占めて、去年はもう1回行き、妻や娘の喜ぶ顔をまた見ることが出来ました。

私生活での思い出の話はさておき、今年になって一番最初に思うことは、独立行政法人に勤務する人であればだれでも同じことになるのかもしれませんが、独立行政法人における中期目標を達成するための中期計画（五ヵ年計画）が終了するまで、残すところあと三ヵ月間もない、ということです。今年の抱負は五ヵ年の成果を頑張って仕上げることです。皆様によるご支援ご指導を賜ることにより実現可能になると確信しております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

職員の表彰

受賞者	片野泉（水循環研究グループ自然共生研究センター）
表彰名	第9回研究発表会ポスター発表一般投票部門賞
発表題目	ダム下流における支川合流が、河川底生動物群集に与える影響—木曽川水系阿木川・2005年3月のデータから—
授賞機関	社団法人応用生態工学会
受賞年月日	平成17年10月2日
受賞者	田代喬（水循環研究グループ自然共生研究センター）
表彰名	第9回研究発表会ポスター発表一般投票部門賞
発表題目	夜行性希少魚ネコギギの昼間の棲み場所—リーチスケールにおける潜在的生息場所の推定—
授賞機関	社団法人応用生態工学会
受賞年月日	平成17年10月2日
受賞者	小野寺誠一（技術推進本部施工技術チーム）
表彰名	平成17年度全国大会第60回年次学術講演会優秀講演者表彰
講演題目	交差点立体化の急速施工技術の効果に関する試算
授賞機関	社団法人土木学会
受賞年月日	平成17年12月26日

受賞者 堺淳一（耐震研究グループ耐震チーム）
表彰名 平成17年度全国大会第60回年次学術講演会優秀講演者表彰
講演題目 アンボンドPC鋼棒を配置したRC橋脚の震動台実験
授賞機関 社団法人土木学会
受賞年月日 平成17年12月26日

受賞者 手計太一（ユネスコセンター設立推進本部水災害・リスクマネジメントチーム）
表彰名 平成17年度全国大会第60回年次学術講演会優秀講演者表彰
講演題目 土地利用・農業生産・人口の変動と河川流況の関係に関する一考察
授賞機関 社団法人土木学会
受賞年月日 平成17年12月26日

土木研究所関連表彰

受賞者 佐川志朗（現株式会社ドーコン、前水循環研究グループ自然共生研究センター交流研究員）
表彰名 第9回研究発表会ポスター発表一般投票部門賞
発表題目 夜行性希少魚ネコギギの昼間の棲み場所—微小生息場所の物理特性—
授賞機関 社団法人応用生態工学会
受賞年月日 平成17年10月2日

記者発表

発表日 平成18年1月13日
件名 [独立行政法人土木研究所『共同研究の募集』について](#)
[（平成17年度 第5回）](#)
担当課等 研究企画課

編集後記

明けましておめでとうございます。この正月、読者の皆様はどのように過ごされたでしょうか。あまり長い休みではありませんでしたが、帰省、スキーなどで過ごされた方も多いかと思います。筆者は帰省するつもりでしたが、実家方面が大雪で帰らずじまいでした。

さて、筆者が広報独法土研の編集を担当してからまもなく3年になりますが、この間、イラク戦争に始まり、SARS、東電の電力不足、鳥インフルエンザ等々の出来事、明るいニュースとしてはつくばエクスプレスの開通など色々ありました。今年はどんな年になるのでしょうか。ぜひ景気が回復して、日本経済復興元年になってほしいものです。

(Y. K)